

卓 話

平成 25 年 5 月 21 日

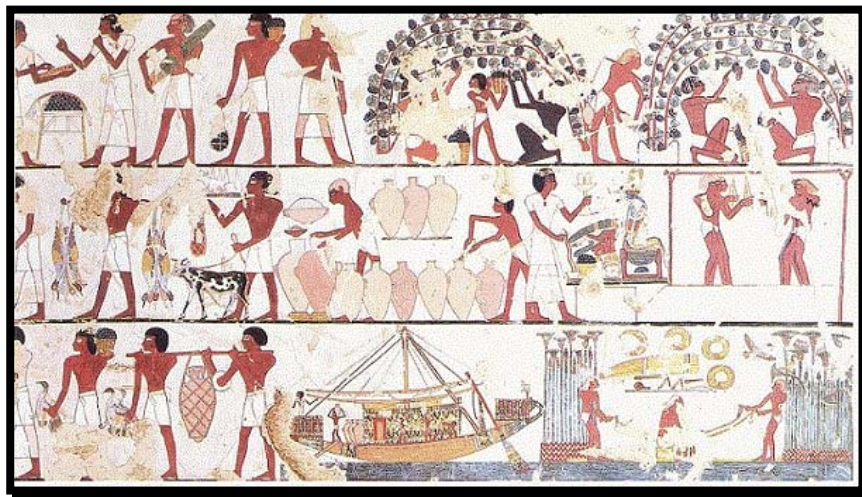
「ワインの話」

岐 阜 都 ホ テ ル
ソムリエ 末松洋祐様

1. ワインの歴史

ワインの歴史は紀元前5000年ごろに中東のイランやグルジア近郊に始まったといわれています。

その後、メソポタミア、エジプト、ギリシャ、ローマと伝わりヨーロッパでワインが造られるようになりました。16世紀にはニューワールドでのワイン造りが始まりました。



古代エジプトでのワイン造りを今に伝える壁画。収穫の様子が描かれている。

2. ワインの個性が決まる4つのポイント

1) ブドウの品種

黒ブドウ・・・カベルネ・ソーヴィニヨン、ピノ・ノワール、メルロ、ガメイ、シラー

白ブドウ・・・シャルドネ、ソーヴィニヨンブラン、リースリング、ミュスカデ、セミヨン

2) 生産地

テロワールが大きく影響する。

3) ヴィンテージ

収穫年のこと

4) 造り手

同じ年、同じ土地でも造り手の感性や方針によって味わいに個性が現れる。

特にブルゴーニュワインは同じワイン名でもさまざまな造り手がいるので要注意。

3. フランスワイン ボルドーとブルゴーニュについて



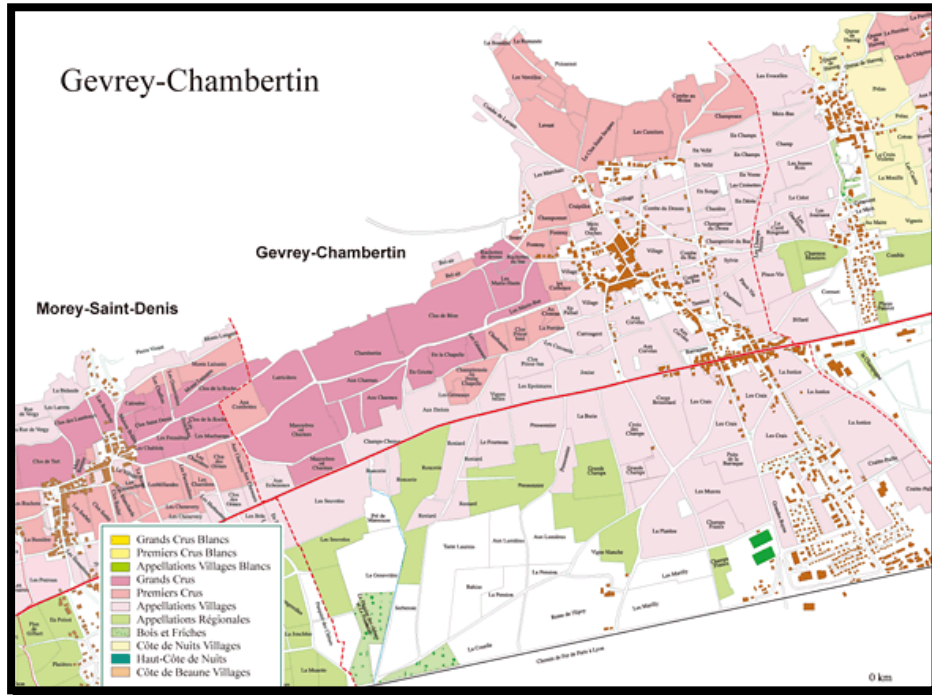
ボルドーのワイナリーはシャトーという、ロマンチックな言葉で呼ばれています。

このシャトーとは、ワイン用語で、葡萄園を所有して葡萄を栽培、醸造してワインを造る生産者のことです。もともとは城とか館の意味です。その昔、ボルドーがイギリス領だった頃、この地のワインは上流階級にたいへん愛され、フランス領に戻ってからも、イギリスで人気が高かった。そこで、富裕な領主たちは大規模な葡萄園を所有し、イギリスへと輸出したのだが、このとき彼らは自分のシャトー（城）名をワイン名にしました。これが現在、シャトーと呼ばれる由来です。



シャトー マルゴー

ブルゴーニュの特徴



ボルドーと双璧をなす銘醸地ブルゴーニュでは、葡萄品種がブレンドされることがほとんどなく、単一品種で造られています。赤ワインはピノ・ノワールかガメイ、白ワインはシャルドネが中心です。

本日のまとめ

ワインの個性を決めるのには大きく4つのポイントがあるが、その中でも生産地域について注目。

ワイン大国フランスで双璧をなす、ボルドーとブルゴーニュ、その違いは、ボルドーはシャトー（城）、カベルネソーヴィニョンを主体とした長期熟成型のワインを産出。中でもメドック地区では1855年に制定された格付けをもとに、



1級から5級までの格付けがなされている。1級のシャトームートン・ロートシルトは毎年エチケツ（ラベル）が有名な画家によって描かれている。1973年にはピカソ、1979年には堂本尚郎氏によって描かれた。

上記に対して、ブルゴーニュの特徴は、同じ畑であっても複数の所有者がいて、造り手によって同じ銘柄でも個性の違うワインが出来上がる。ロマネコンティもブルゴーニュ地区ではあるが、この畑に関しては、所有者が単独であり、こういった単独所有の畑のことをモノポールと呼んでいる。品種は、黒はピノ・ノワール、白はシャルドネ主体である。最近では、この畑の買収に中国人がのりだしてきており、2ヘクタールで500万ユーロが相場の土地に対し800万ユーロ（当時約 7億9000万）と破格値の提示で購入したことも話題となった。